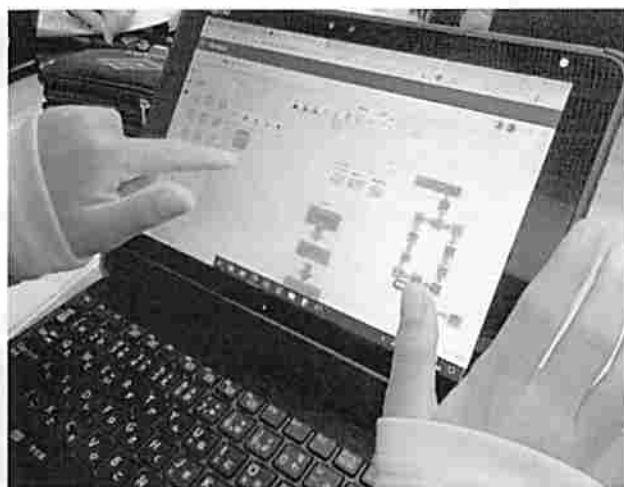


歴史的事象を因果的に関連付けて考えることができる児童の育成

～Microsoft Whiteboard を活用した協同的学習を通して～



1 研究主題

歴史的事象を因果的に関連付けて考えることができる児童の育成

～Microsoft Whiteboard を活用した協同的学習を通して～

2 主題設定の理由

(1) 現代社会の要請から

平成28年の中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」では、「これからの時代に求められる資質・能力を視野に入れ、現代的な諸課題を歴史的に考察する力を育成すること」が挙げられている。また、国立教育政策研究所では、「生きる力」をより実効性のあるものとして発揮させるために「21世紀型能力」という教育課程の方向を示唆するモデルが提唱され、「知識・技能の習得を学びのゴールとするのではなく、それらをもとにして考えることの重要性」が挙げられている。

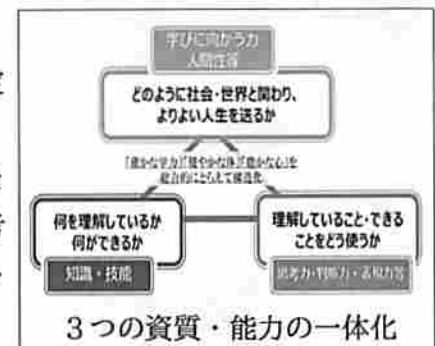
このような現状から、断片的な知識の獲得を目指すのではなく、それらの関わりに目を向け、歴史的事象を因果的に関連付けて考えることができる児童の育成を目指す。

(2) 学習指導要領から

本研究は、学習指導要領第6学年の目標及び内容に基づいて設定したものである。

現代は予測困難な時代と言われ、この時代を生きぬく資質・能力を育むことが求められている。今回の改訂では「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の3つの資質・能力を一体として育成することが目指されている。

そこで「主体的・対話的で深い学び」を通して、獲得した知識を基にした思考力を育むため、歴史的事象を因果的に関連付けて考える力に焦点を当てることとした。



(3) 印教研社会科研究部研究主題から

よりよい社会の実現に寄与する「生きる力」を培う社会科学習
～自ら課題を見だし、自分の考えを表現できる児童生徒の育成を目指して～

「生きる力」とは、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、他者と共によりよく問題を解決する資質・能力である。印教研社会科研究部研究主題の方向性から、単なる知識や技能の習得だけでなく、知識を基盤として自分の考えを言葉や図で表現する力の育成が求められている。そこで本研究では、課題解決のための情報収集・共有・関連付けの場面を設定し、歴史的事象を因果的に関連付ける学習を進めていく。

このような学習の継続により、知識や技能の習得を学びのゴールとするのではなく、それらを用いて他者と協働して課題解決に向かう「生きる力」が育まれていくと考えられる。

(4) 先行研究から

小学校学習指導要領では、「歴史的な事象を手掛かりに、大まかな歴史を理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解すること」と、因果的に関連付けて考える段階までは求められていない。しかし、歴史学習における思考力の育成について、白井ら(2018)は「歴史的な変化を因果的に理由付ける力の基礎を養う必要がある」と主張している。加えて、中学校学習指導要領では、考察、構想する際の視点として「社会的な事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けること」と、因果的に関連付けて考えることが求められている。このことから、小学校段階でも大まかな歴史の流れを理解するために、歴史的な事象を因果的に関連付けて考える力を育成し、中学校での学習に繋げていくことが大切であると考えた。

また、白井らの研究では、表、図、データを用いて可視化することの有効性が示されている。そこで本研究においては、ICTを活用することで事象同士の関わりが可視化され、歴史的な事象を因果的に関連付けて考える力が育まれると考え、本研究主題の副題とした。

(5) 児童の実態から

社会科、特に歴史学習は人名や年号、事件を暗記する教科であるというイメージが強く、また学習内容が多いため苦手意識をもつ児童が多い。歴史的な事象や多くの人名をただ覚えるだけの学習では、断片的な知識の習得のみに留まり、知識同士を関連付けて思考したり表現したりすることは難しい。そこで本研究では、ただ知識を得るのではなく、歴史的な事象同士を関連付けて考える学習活動に取り組むことで歴史学習における思考力の向上を目指す。

以上(1)～(5)を受けて、本研究主題を設定した。

3 主題について

(1) 歴史的な事象を因果的に関連付けて考える力

因果的とは、ある出来事や行動が直接的または間接的に他の出来事や結果を引き起こす関係のことを指す。関連付けるとは、異なる要素や情報に繋がりをもたせ結びつけることを指す。

そこで本研究では、歴史的な事象を因果的に関連付けて考える力を、当時の社会情勢を踏まえ歴史的な事象を順序立てて結びつけて考えることができる力と定義する。

(2) Microsoft Whiteboard を活用した協同的学習

Microsoft Whiteboard とは、付箋や様々な図形、色を使って複数の児童が一斉に書き込むことのできるデジタルホワイトボードアプリである。調べたことを図形や付箋に書き込んで共有したり、複数の児童が調べたことを繋げたりする協同的学習に適している。

このアプリを活用して協同的学習を行うことで、模造紙と付箋紙で進める活動では得られない利点が期待される。

利点①作業途中での修正や変更が容易である

本学習では、児童は互いに調べたことについて矢印を用いて因果的に関連付けをしていく。

模造紙と付箋紙を用いた場合、やり直しがきかない、作業のスペースが足りない、模造紙がボロボロになる等、様々な問題がある。

一方で、Microsoft Whiteboard は、書き込んだ後に付箋、矢印、文字の修正や変更をすることが容易である。これにより安心して自分が調べたことや考えたことを書き込むことができ、児童の思考や対話を促進することができる。作業のスペースについては、自分の机上のタブレット1台で、いくつもの付箋や図形、文字を書き込むことができる。もちろん紙がボロボロになることもない。

利点②作業の同時進行が可能である

模造紙と付箋紙を用いた場合、付箋紙を模造紙に貼るまで、だれがどのようなことを付箋紙に書いたか、どのように関連付けをしたのかが分からない。そのため、その確認のために、都度作業の手を止めて、みんなで模造紙を見る時間をとる必要がある。

一方で、Microsoft Whiteboard は、自分の調べる活動を進めながら、手元で他者が関連付ける様子を見ることができる。つまり、誰がどんなことを調べているのか、どのように事象同士を結びつけているのかをグループ内全員がリアルタイムで見ることができる。これにより、自分の思考を止めずに活動することができ、加えて個人での調べ学習では届き得ない深い学びを実現することが可能である。

自分の作業を進めながら、友達が作業する様子を見ることができる。



児童の手元の画面

4 研究の目標

本研究は、歴史的事象を因果的に関連付けて考えることができる児童の育成を目指して、ICT を活用したグループでの協同的学習が有効であることを明らかにする。

5 研究の内容と方法

ア 児童が歴史的事象に対して見通しをもち、主体的に調べることができる学習方法の工夫
/児童の変容の分析 (Microsoft Whiteboard 上の記述)

イ ICT を活用したグループでの協同的学習の有効性
/児童の変容の分析 (ノート・Microsoft Whiteboard 上の記述)

6 研究仮説及び手立て

【仮説1】

見通しをもたせ、目的に応じた方法で調べさせることで、児童の主体的な学習を促し、歴史的事象についての知識を獲得することができるであろう。

手立て① 学習問題の検討

本実践では、学習問題の追究・解決のために、児童一人一人が自らの興味・関心に基づいて歴史的事象について調べた後、調べたことをグループで共有し、関連付ける学習活動を展開していく。そこで、単元の1時間目には、その時代の様子や変化を捉えることができる資料をタブレットで児童に提示する。そこから読み取れる事実や疑問を中心に、グループ、学級全体へと広げ学習問題を立てていく。そうすることで、学級全体として、調べ学習の方向性を定めることができ、主体的に調べ学習に取り組むことができると考える。

手立て② 目的に応じた調べる方法の選択

単元の2時間目以降、手立て①で立てた学習問題の解決に向けて、調べ学習を進めていく。調べ学習には、教科書、資料集、インターネットを用いるが、いきなりインターネットで調べると、膨大な情報に困惑することが懸念されるため、毎時間調べ学習のガイドラインを提示する。これにより、教科書や資料集を中心に、その時代の流れを大まかに押さえて、さらに疑問や深く知りたいことをインターネットで調べることができると思う。



資料集で調べ、ノートにメモする児童

【仮説2】

学習問題の解決に向けて、グループで協同的学習を行うことで、互いの調べたことを共有・整理し、歴史的事象を因果的に関連付けて考えることができるであろう。

手立て③ Microsoft Whiteboardの活用

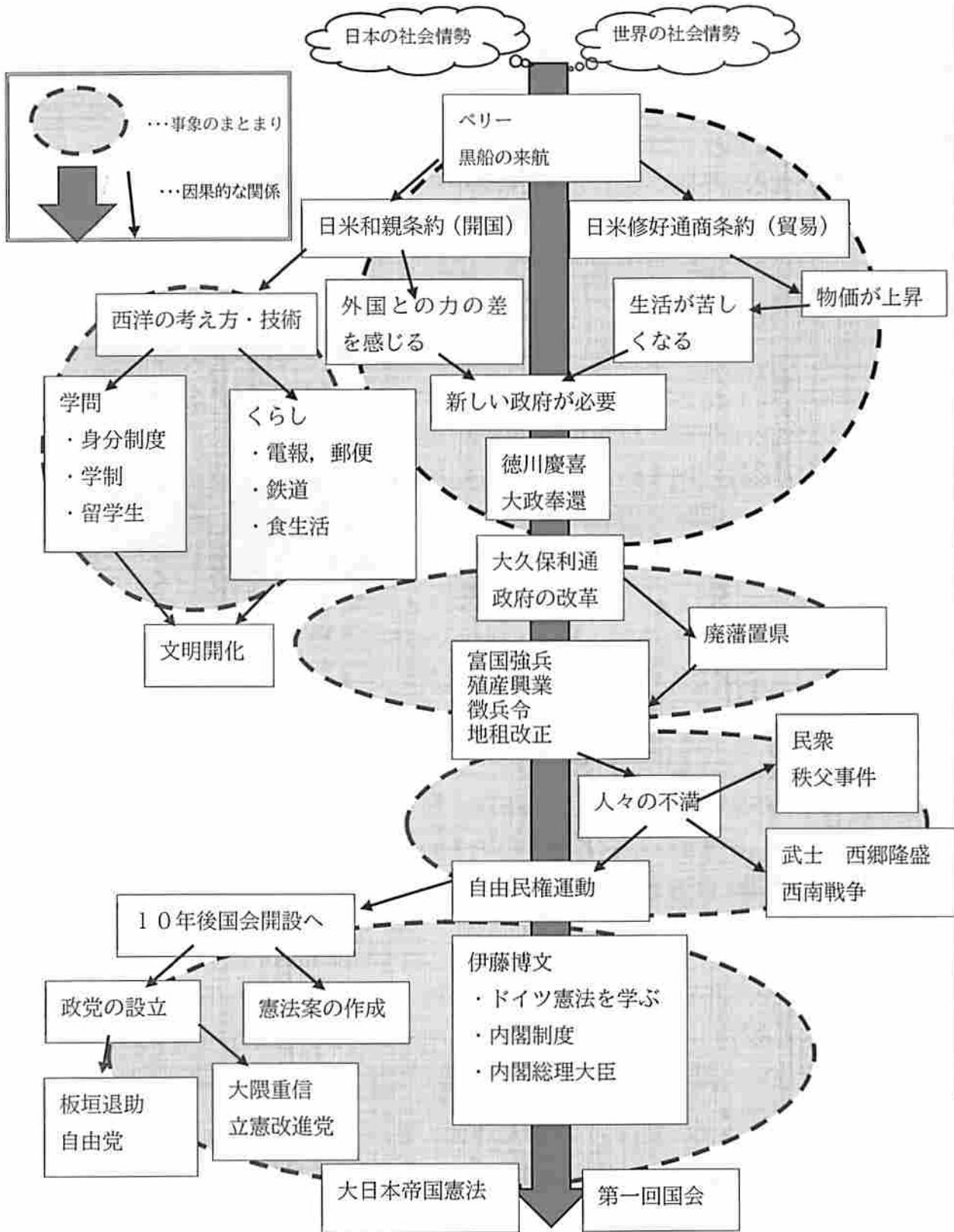
ICTを活用することで、複数人で同時に多くの情報を結びつけることができたり、活動の途中でも新しい情報を取り入れたりすることが可能である。本実践では、Microsoft Whiteboardを用いて、調べたことをグループで共有・関連付けしていく。このような活動によって事象同士の関わりを可視化することで、歴史的事象を因果的に関連付けて考える力を身に付けることができると考える。

手立て④ 調べたことや単元のまとめの記述

Microsoft Whiteboardを活用し、歴史的事象を関連付けた後、まとめ学習のガイドラインに沿って、個人でノートにまとめていく。この活動では、Microsoft Whiteboardで作成したものや反映された意見をそのまま書き写すのではなく、自分で情報を取捨選択し、歴史の流れを順序立てて表すようにさせる。これにより、グループで共有した知識がどのくらい自分に還元されているのか、自分がこの単元の内容をどのくらい理解しているのかをメタ的な視点で確認することができると思う。

7 本單元における知識と思考の構造図

本研究では、小学校6年生の歴史単元「明治の国づくりを進めた人々」を取り扱った。



中心概念

我が国は、明治維新をきっかけとして欧米文化を取り入れて近代化を進めた。

8 仮説に関わる授業の実際

【仮説1】手立て① 学習問題の検討

第1時「江戸と明治の街並みを比較」

「明治の国づくりを進めた人々」の単元において、資料「江戸時代末ごろの日本橋近くの様子」、「明治時代初めの日本橋近くの様子」をタブレットで児童に提示し、その変化や違いを児童に考えさせた。300年近く続いた江戸の文化が、わずか20年で急激に変化したことを知り、驚く児童も多かった。

ICTを用いることで、資料提示の場面では、資料を拡大して細部の変化に目を向けたり、資料を並べて比較したりする姿が見られ、時代の変化に興味をもつことができた。学習問題検討の場面では、比較した資料からの気づきや疑問を個人からグループ、グループから全体へと広げて共有した。そうすることで、学級全員が学習問題を自分事として捉え、主体的に問題解決に向かおうとする姿勢が見られた。



児童に提示した資料

建物に窓がつくようになったね。



服や髪型が現代に近づいてきたね。

どうしてこんな急に変わったのかな。



児童から出た気づきや疑問

【仮説1】手立て② 目的に応じた調べる方法の選択

第2時～第5時「ガイドラインに沿った調べ学習」

調べ学習の初めに、インターネット内の膨大な情報から、必要な情報を探すにはどうすればよいかを問いかけた。児童からは、「むやみやたらにインターネットを使うのではなく、必要に応じて教科書、資料集、インターネットを使い分ける」という声が上がった。次に、情報が必要か不必要かを判断するにはどうすればよいか問いかけた。児童からは、「学習問題の解決に向かっているかをグループのみんなで確認する」という声が上がった。

そこで、必要な情報を適切な手段で得ることができるよう、児童の言葉を用いて「調べ学習のガイドライン」を作成した。毎時間提示することで、目的に合わせて、調べ学習を進めることができた。

調べ学習のガイドライン

学習問題
なぜ明治維新が起こったのか。その結果
どのように変化したのだろうか。

ポイント！

- ① おおまかな時代の流れをつかもう！
キーワードがぬけおちないように（教科書や資料集から読み取る）
いきなりインターネットへ△
- ② 順序立てて書き表そう！
なぜ？、結果～を明確にして①を肉付けしていく
- ③ たがいに会話をする。わからないことは聞き合う！
たがいの調べたことを結びつけて考える！（より深く考えよう）
矢印（→）を使う、丸（○）で囲む、図や表、写真を入れる…
調べたこと

調べ学習のガイドライン

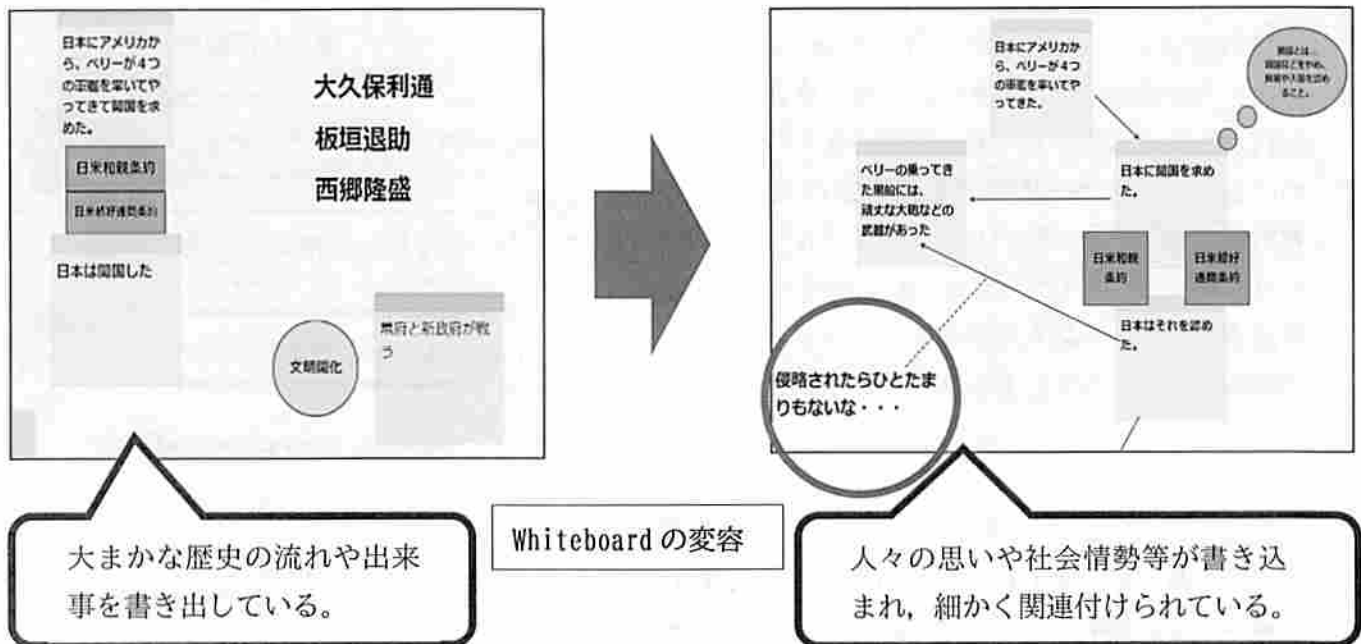


調べ学習を進める児童

【仮説2】手立て③ Microsoft Whiteboard の活用

第2時～第5時「Microsoft Whiteboard を活用して、歴史的な事象を因果的に関連付ける」

調べ学習で調べたことは、その都度 Whiteboard に入力していく。調べはじめは、「調べ学習のガイドライン」に沿って、大まかな歴史の流れや出来事を書き出したり、Whiteboard に入力したりするグループがほとんどであった。はじめこそ調べることに夢中で対話が少なかったものの、ある程度調べ学習が進むと、事象同士を関連付けたり、互いに疑問について話し合ったりと児童同士の対話が増えるようになってきた。事象同士を結び付ける活動も、時数を重ねるごとに、より細かく関連付けようとする姿が見られるようになり、獲得した知識を学習問題の解決に向けて使うことができるようになってきた。



【仮説2】手立て④ 調べたことや単元のまとめの記述

第6時「単元のまとめ」

Microsoft Whiteboard で関連付けを行った後、調べたことや単元のまとめを自分の言葉でノートに書いた。この活動は、グループで相談せず、関連付けをした Whiteboard を見ながら、個人で書くよう伝えた。また、ノートに記述する際、教師が作成した「まとめ学習のガイドライン」を提示し、以下の4点を意識して書くよう指導した。

まとめ学習のガイドライン

学習問題 なぜ明治維新が起こったのか。その結果どのように変化したのだろうか。

ポイント！

- ① **自分なりの言葉で書こう！**
Whiteboard をそのままうつす→△
- ② **順序立てて書き表そう！**
なぜ？、結果～を明確にする
- ③ **より細かく繋げよう！**
1つ1つの出来事の関係性が見える→◎
- ④ **自分で見返してよくわかるノートにしよう！**
時代の流れが一目でわかる→◎

まとめ学習のガイドライン

- ・ Whiteboard を写すのではなく、学習問題に沿って自分が大切だと思う事象を選んでまとめること。
- ・ 矢印を使っても使わなくても構わないが、「なぜ？」や結果が分かるような書き方をすること。
- ・ ひとつひとつの事象がより細かく関連付くようにすること。
- ・ 自分がノートを見返したときに、時代の流れがよくわかる書き方をすること。

これにより、Whiteboard 上の情報を取捨選択し、それらを因果的に関連付けて考え、ノートに書くことができるようになってきた。

9 仮説の検証

検証は、仮説1は各グループがMicrosoft Whiteboardに入力した事象の数の平均で、2は抽出児童のMicrosoft Whiteboard活用前のノートと、活用後のノート記述を基に以下の評価基準で行った。

以下、抽出児童として、H児（学力、意欲ともに中程度）、S児（学力が高く、意欲も高い）、I児（学力は中程度、意欲は高い）の3名を扱う。

【仮説1検証】「主体的に学習に取り組み、知識を獲得できたか」

前单元「江戸幕府と政治の安定」と、本单元とで入力した事象数の平均を比較する。（前单元では、Microsoft Whiteboardを用いた活動は行っていたもの、手立て①②は行っていない）

	江戸幕府と政治の安定		明治の国づくりを進めた人々
事象の数（1組）	27	+40	67
事象の数（2組）	31	+31	62

前单元と比較して、事象の数が増えていることがわかる。事象の数の増加に伴い、細かく関連付けをすることができるようになり、関連付ける矢印や記述も増えた。

学習問題を全体で検討し、学習の方向性を明らかにするとともに、インターネットを効果的に活用したことで、児童一人一人が主体的に調べ学習に取り組めるようになったと考えられる。

【仮説2検証】「歴史的事象を因果的に関連付けて考えることができたか」

①評価基準

評価	A	B	C
評価基準	当時の社会情勢や人々の思いを踏まえ歴史的事象を順序立てて結びつけて考えることができる。	当時の社会情勢を踏まえ歴史的事象を順序立てて結びつけて考えることができる。	歴史的事象を順序立てて結びつけて考えていない。
具体的イメージ	<p>××の解決に向けて ①...したいな ②~が必要だ</p> <p>××の解決に向け、 ○○によって△△が行われる。 △△によって人々は、 ①～、②～の思いが高まり、 その結果、□□のように変化した。</p>	<p>○○によって△△が行われ、□□の ように変化した。</p>	<p>○○がやったこと ①～ ②～</p>

②抽出児童のノート記述の変容

H児

1. 信長の勢力の拡大
 ・信長は20年以上かけて対立する大名・仏教をおさえて天下統一をめざしていた。

2. 天下布武

出来事をまとめたり、語句を説明したりしているが、事象同士を結びつけて考えられていない。

評価 **C**

改革に対する不満
 ・(政府)に不満を持つ士族が
 を起こす。(西南戦争)
 ↓
 指導者 西郷隆盛
 ↓
 ・政府軍に敗れる
 ↓
 武力かう、言論で主
 る世の中へ!

当時の社会情勢と事象を結びつけ、それによってどう世の中が変わっていったかを考えている。

評価 **B**

以前の单元では、年表のようにまとめていたH児だが、本单元では、歴史的事象を順序立てて書く際に矢印で関連付けができるようにスペースを空けて書く工夫が見られた。Microsoft Whiteboardでの活動の段階で、事象同士の関連に気付いたことがこのような工夫に繋がったと考えられる。

S児

1467年 応仁の乱 室町幕府の衰退
 ↓
 下剋上(起)
 ↓
 しょう軍の家来 各地へ身分代り
 ↓
 地方で力を蓄つて幕府大名
 考へる

当時の社会情勢と事象を結びつけ、順序立てて世の中の変化を考えている。

評価 **B**

力合衆国の使者ペリー来航
 ↓
 日本にとって不平等な
 開国を求められる
 ↓
 力を見せつけられ
 開国決定
 ↓
 不満をもつ人々
 外国攻めき 力を知る
 ↓
 幕府をおとす
 ↓
 大政ほうかん

当時の社会情勢だけでなく、人々の思いを踏まえ、より細かく順序立てて変化を考えている。

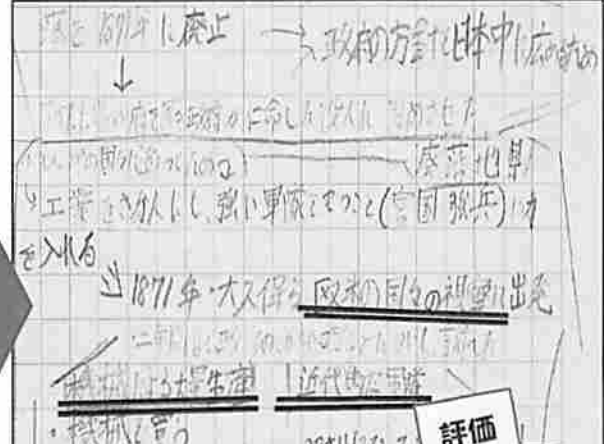
評価 **A**

以前の单元から、大まかな流れをまとめることができていたS児だが、本单元では、より細かく関連付けながら流れをまとめることができています。Microsoft Whiteboardでは1つの事象から複数の矢印を伸ばそうとしていた。その中で人々の思いや社会情勢に目を向けることができたと考えられる。

1 児



当時の社会情勢と事象を結びつけ、順序立てて世の中の変化を考えている。



当時の社会情勢と事象を結びつけ、外国に追いつくための取り組みを考えている。



以前の単元から、大まかな流れをまとめることができていた1児だが、本単元でも大まかな流れは押さえることができていた。しかし、どういう思いや考えで次の事象に繋がったのかの記述をとることはできなかった。Microsoft Whiteboardの活動では、事象同士を結びつけることができていたが、そこに付随する因果的な関係が少なかった。事象同士を結びつける話し合いに終始してしまい、当時の人々の苦勞や不満などに注目する話し合いに発展させることができなかったと考えられる。

Microsoft Whiteboard 導入以前の単元と比較して、矢印を用いて因果的に関連付ける記述が多く見られるようになった。互いの調べたことを Whiteboard 上で共有・整理したことにより、個人の調べ学習では届き得ない深い学びを実現することができた。

Whiteboard での活動の後に個人でのまとめ学習を設定したことで、活動を他人任せにせず、児童一人一人が思考するようになったと考えられる。

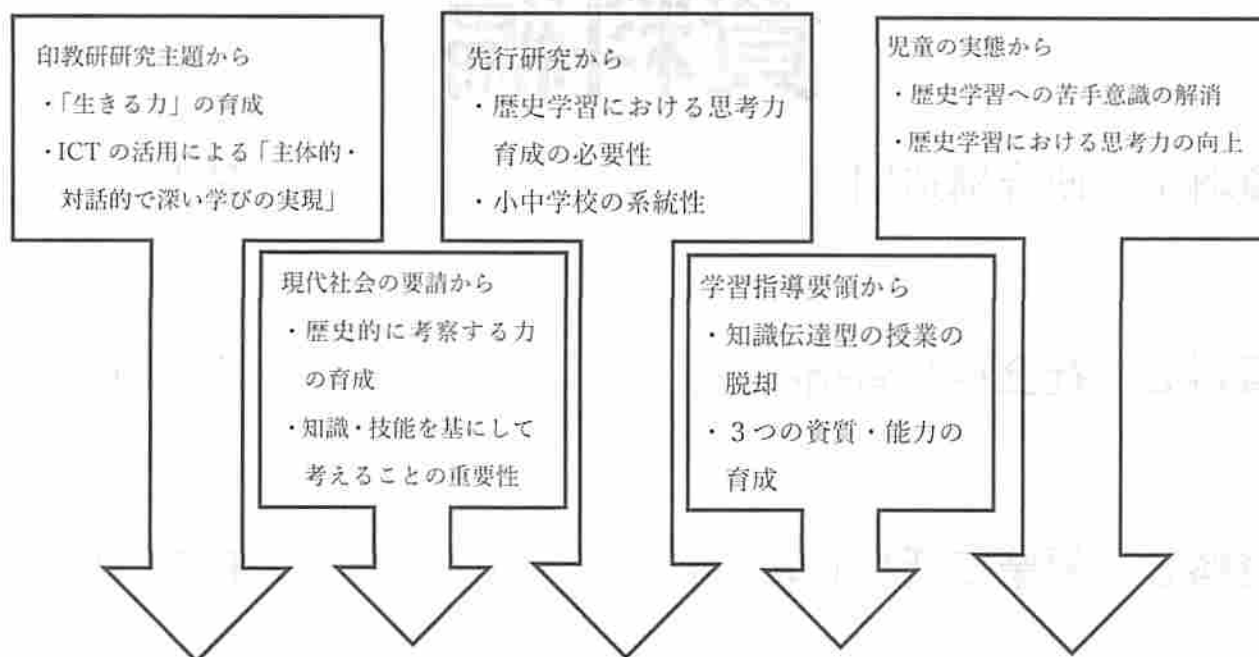
10 成果と課題

- (成果)
- 課題解決の見通しをもたせたり、調べ方の工夫をしたりすることで、主体的に学習に取り組むことができるようになり、歴史的な事象についての知識をより多く獲得することができた。
 - グループで協同的に学習に取り組むことで、グループ内で調べたことを結びつけて、歴史的な事象を因果的に関連付けて考えることができた。
- (課題)
- Microsoft Whiteboard では、蜘蛛の巣状に歴史的な事象を広げていくグループもあり、それによって大まかな流れが捉えづらくなっているグループがあった
 - Microsoft Whiteboard での活動は、グループによって進捗や質に差が見られた。グループ間で交流の場を設け、進捗や質の差をできるだけ埋め、全員がより関連付けて考えられるようにしていく必要がある。

資料編

資料 1	研究構造図	P 1
資料 2	社会科学習指導案	P 2-6
資料 3	授業で活用した資料	P 7-8
資料 4	Microsoft Whiteboard 画面に入力された事象の量的変化	P 9
資料 5	Microsoft Whiteboard の変容	P 10
資料 6	ノートの変容	P 11
資料 7	本単元で児童が作成した Whiteboard	P 12-13
資料 8	参考文献	P 14

資料1 研究構造図



歴史的な事象を因果的に関連付けて考えることができる児童の育成
—Microsoft Whiteboard を活用した協同的学習を通して—

【仮説1】

見通しをもたせ、目的に応じた方法で児童に調べさせることで、児童に主体的な学習を促し、歴史的な事象についての知識を獲得することができるであろう。

【仮説2】

学習問題の解決に向けて、グループで協同的学習を行うことで、互いの調べたことを共有・整理し、歴史的な事象を因果的に関連付けて考えることができるであろう。

手立て①

「学習問題の検討」

調べ学習の方向性を定め、主体的に問題の解決へ取り組ませる。

手立て②

「目的に応じた調べる方法の選択」

大まかな時代の流れを押さえた上で、深く知りたいことを調べる。

手立て③

「Microsoft Whiteboard の活用」

アプリケーションを用いて、調べたことをグループで共有・関連付けする。

手立て④

「調べたことや単元のまとめの記述」

歴史的な事象を関連付けた後に、個人単位でノートにまとめる。

第6学年2組 社会科学習指導案

指導者 石田 蓮

1. 単元名 明治の国づくりを進めた人々

2. 単元について

(1) 単元観

- (2) 我が国の歴史上の主な事象について、学習の問題を追及・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。その際、我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、大まかな歴史を理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解すること。
 - (ケ) 黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などを手掛かりに、我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解すること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること。

本単元は、学習指導要領以下を受けて設定した。

児童はこれまでに、江戸時代に武士が人々を支配する身分制をつくり、大名配置や鎖国などを行うことによって、長い間全国統一する仕組みがつくられたことや、生活に根付いた町人文化が発展してきたことを学習してきた。

本単元では、これらを土台として、日本が廃藩置県や四民平等などの諸改革、文明開化といったように進んだ欧米文化を取り入れつつ近代化を進めたことを捉えることができるようにする。そこで、黒船来航後の国内の様子に着目し、争いがある中にも人々が協力して近代化を進めたという社会事象を教材として取り上げる。さらに、西洋と対等な地位を築くために、日本が明治中・後期から進んだ産業化社会や富国強兵の国づくりを進めたことで、国力が充実し、国際的地位が向上していったことを捉える学習へと発展させていく。

(2) 児童の実態 令和4年11月8日調査(男子19名、女子10名 計29名)

本学級の児童は、「社会科の学習は好きですか」という質問に対し、27名の児童が、「好き」「どちらかといえば好き」を選択している。その理由として多いのが「自分が生きていない時代の出来事・人物に興味がある」といった歴史の学習に対する意見であった。また、「グループで気づいたことを共有したり、協力して調べまとめたりする活動は好きですか」という質問に対し、26名の児童が、「好き」「どちらかといえば好き」を選択している。しかしながら、3名の児童は、「どちらかといえば好きではない」を選択しているため、グループ活動に否定的な意見をもつ児童がいることを受け止め、活動が円滑に進むよう支援をする必要がある。

○社会科の学習は好きですか。

- ・好き…62% (18人)
- ・どちらかといえば好き…31% (9人)
- ・どちらかといえば好きではない…7% (3人)
- ・好きではない…0% (0人)

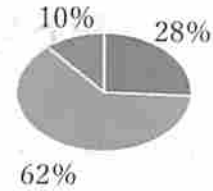
社会科の学習は好きですか。



○グループで気づいたことを共有したり、協力して調べまとめたりする活動は好きですか。

- ・好き…28% (8人)
- ・どちらかといえば好き…62% (18人)
- ・どちらかといえば好きではない…10% (3人)
- ・好きではない…0% (0人)

グループで気づいたことを共有したり、協力して調べまとめたりする活動は好きですか。



次に、ICT機器の取り扱いについての意識調査、使用スキル調査を行った。

本学級の児童は、「社会科の学習でタブレットを使うことは必要だと思いますか」という質問に対し、29名の児童が、「必要だと思う」「どちらかといえば必要だと思う」を選択している。その理由として多いのが「調べ学習の効率が良くなる・幅が広がるから」「教科書にも載っていないことを知ることができるから」「教科書の資料の見えない部分を拡大して見ることができるから」といった調べ学習や資料の活用に対する意見であった。しかしながら、ネット上には様々な情報があり、調べる過程で学習問題から遠ざかってしまうことが懸念される。そのため、教科書や資料集からキーワードを確実におさえられるような手立てが必要である。

また、使用スキルについては、オクリンク、ムーブノート、Microsoft whiteboardの3つの習熟度を確認した。結果は以下のとおりである。(各スキルで、「できる」「どちらかといえばできる」を選んだ児童の割合を下記に表示。)

- ・オクリンクで写真をとったり、提出ボックスに送ったりすることができる。
…100% (29人)
- ・ムーブノートで写真をとったり、広場に送ったりすることができる。
…100% (29人)
- ・Microsoft whiteboardで気づいたことを書き込んだり、ふせんを見やすく調節したりすることができる。
…97% (28人)

上記の結果から、本単元で使用予定であるスキルを多くの児童が身に付けていることがわかる。しかしながら、「どちらかといえばできない」を選択している児童もいるため、グループでの活動の中で互いに教え合うように指導したり、操作で困っている児童がいないかを確認しながら机間指導を行ったりするなどの支援が必要である。

○社会科の学習でタブレットを使うことは必要だと思いますか。

- ・必要だと思う…66% (19人)
- ・どちらかといえば必要だと思う…34% (10人)
- ・どちらかといえば必要でないと思う…0% (0人)
- ・必要でないと思う…0% (0人)

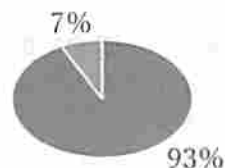
社会科の学習でタブレットを使うことは必要だと思いますか。



○オクリンクで写真をとったり、提出ボックスに送ったりすることができますか。

- ・できる…93% (27人)
- ・どちらかといえばできる…7% (2人)
- ・どちらかといえばできない…0% (0人)
- ・できない…(0人)

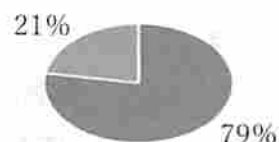
オクリンクで写真をとったり、提出ボックスに送ったりすることができますか。



○ムーブノートで写真をとったり、広場に送ったりすることができますか。

- ・できる…79% (23人)
- ・どちらかといえばできる…21% (6人)
- ・どちらかといえばできない…0% (0人)
- ・できない…0% (0人)

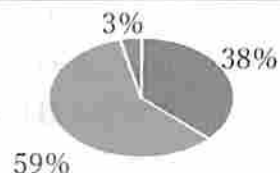
ムーブノートで写真をとったり、広場に送ったりすることができますか。



○Microsoft whiteboardで気づいたことを書き込んだり、ふせんを見やすく調節したりすることができますか。

- ・できる…38% (11人)
- ・どちらかといえばできる…59% (17人)
- ・どちらかといえばできない…3% (1人)
- ・できない…0% (0人)

Microsoft whiteboardで気づいたことを書き込んだり、ふせんを見やすく調節したりすることができますか。



(3) 指導観

本単元では、明治維新による社会の大きな変化を調べる活動を通して、明治政府の政策や出来事、日本の近代化について理解できるようにする。

まず第一に、資料を比較するためにオクリンクを活用する。資料をオクリンクで児童一人一人に送信することで、児童はタブレット上で、自分の見たい場所を拡大して見たり、資料を拡大することによって、細かな違いに気づいたりすることができる。

第二に、自分の考えを広げるためにオクリンクを活用する。友達の考えを取り入れることで、多様な考えに触れることができる。

第三に、グループ活動では、Microsoft Whiteboardを活用する。調べ学習では、学習問題解決に向け、教科書や資料集、インターネットを用いる。加えて、Microsoft Whiteboardを用いて、調べたことをタブレット上で共有し合い、整理する活動を取り入れている。タブレット上で調べたことを共有することで、全員で調べて全員で整理することができたり、調べたことをスムーズに共有したりすることができる。また、互いの調べた情報を結びつけることで、理解が深まる。

単元のまとめでは、グループで共有したものを活用し、自分の言葉でまとめる活動を行う。言葉でまとめる際にグループで共有したものを確認することで、歴史的事象の繋がりが捉えやすくなり、その結果、筋道立ったまとめを行うことができる。

児童の実態からも見て取れるように、本学級ではグループでの活動に肯定的な意見を示す児童が

多い。そのため、本単元でも学習問題の解決に向けて、グループで話し合ったり整理したりする活動を積極的に取り入れることが好ましいと考える。また、タブレットでの調べ学習に対しても同様に肯定的な意見を示す児童が多いため、本単元でも調べ学習の時間を十分に確保することで、児童の学習意欲向上に繋げることができるのではないかと考える。

3. 単元の目標

〈知識及び技能〉

- ・幕末から明治初期の出来事について、資料から必要な事実を適切に読み取ったり、人物の業績や主な出来事の間接関係を図表に適切に整理したりする技能を身に付けるとともに、明治維新によって欧米文化を取り入れつつ近代化が進んだことを理解できる。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・幕末から明治初期の討幕運動、外国との関係、明治政府の政策、日本人々の生活を関連付けて考え、筋道立てて説明することができる。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・幕末から明治初期の日本人々の生活の変化に関心を持ち、明治維新による近代化について意欲的に調べ、主体的に問題解決しようとしている。

4. 指導計画（6時間扱い）

時配	学習内容と学習活動	評価規準（評価の観点・評価方法）
1	<p>○ 江戸時代の日本橋の様子と明治時代の日本橋の様子を比べてみて、わかることや考えたことを話し合う。 （資料はオクリンクで送る。）</p> <p>○ 明治維新を資料から理解し、明治維新を行った人々に関心を持ちながら、調べたいことや知りたいことを個人で考え、それらを基に学級で1つの学習問題を考える。</p>	<p>・江戸と明治の社会の変化について資料から読み取り、読み取ったことをもとに学習問題を考えることができる。 （思考・判断・表現） 【観察・タブレット】</p> <p>・江戸から明治への社会の変化に疑問を持ち、学習問題を考えようとしている。 （主体的に学習に取り組む態度） 【観察】</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>学習問題</p> <p>どのようにして明治維新が起こったのだろうか。</p> <p>明治維新によって、どのように変化したのだろうか。</p> </div>		

2	<p>○ 黒船来航と条約締結による国内の混乱の中、より強い国づくりの必要性を感じた武士たちによる倒幕の様子について調べる。</p> <p>○ 大久保利通や明治新政府の改革、文明開化、そして自由民権運動の高まりから、国会開設・大日本帝国憲法の発布に至るまでの政策や出来事について調べる。</p> <p>(調べ学習には、教科書、資料集、インターネットを用いる。)</p>	<p>・資料をもとに、必要な情報を取捨選択し、ノートに書き表すことができる。</p> <p>(知識・技能) 【観察・ノート】</p>
3 4 5	<p>○ 明治維新によって、日本にどのような変化が起きたか、調べたことをグループで共有し、歴史的事象を関連付けて構造化する。</p> <p>(グループでの学習には、Microsoft Whiteboardを用いる。)</p>	<p>・調べたことをもとに、学習課題解決に向けて、歴史的事象を結びつけ、整理することができる。</p> <p>(思考・判断・表現) 【観察・タブレット】</p> <p>・グループでの共有・構造化の活動に主体的に取り組んでいる。</p> <p>(主体的に学習に取り組む態度) 【観察】</p>
6	<p>○ 学習問題に対するまとめを自分の言葉で表し、明治維新による変化を筋道立てて説明する。</p>	<p>・明治維新による出来事や、近代化に向かう流れについて理解している。</p> <p>(知識・技能) 【観察・ノート】</p> <p>・明治維新による変化を筋道立ててまとめることができる。</p> <p>(思考・判断・表現) 【観察・ノート】</p>

資料3 授業で活用した資料


①第1時（導入場面）で使用した資料



②第2～5時（調べ学習）で使用した資料

調べ学習のガイドライン

学習問題
なぜ明治維新が起こったのか。その結果どのように変化したのだろうか。



ポイント!

- ① **おおまかな時代の流れをつかもう!**
キーワードがぬけおちないように（教科書や資料集から読み取る）いきなりインターネット→△
- ② **順序立てて書き表そう!**
なぜ？、結果～を明確にして①を肉付けしていく
- ③ **たがいに会話をする。わからないことは聞き合う!**
たがいの調べたことを結びつけて考える！（より深く考えよう）
矢印（→）を使う，丸（○）で囲む，図や表，写真を入れる…
調べたことに対してみんなで意見を出し合う。

まとめ学習のガイドライン

学習問題

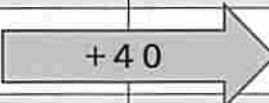
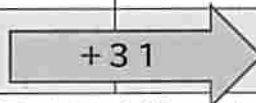
なぜ明治維新が起こったのか。その結果
どのように変化したのだろうか。

ポイント！



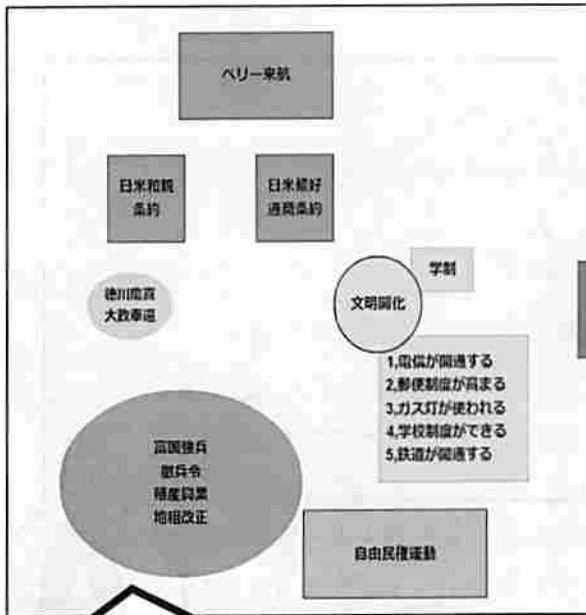
- ① **自分なりの言葉で書こう！**
Whiteboardをそのままうつす→△
- ② **順序立てて書き表そう！**
なぜ？、結果～を明確にする
- ③ **より細かく繋げよう！**
1つ1つの出来事の関係性が見える→◎
- ④ **自分で見返してよくわかるノートにしよう！**
時代の流れが一目でわかる→◎

資料4 Microsoft Whiteboard 画面に入力された事象の量的変化

グループ	江戸幕府と政治の安定	明治の国づくりを進めた人々
A	43	101
B	22	55
C	26	56
D	18	98
E	33	56
F	34	63
G	25	54
H	17	54
1組 Ave.	27	67
+40 		
A	35	64
B	36	80
C	42	52
D	26	54
E	40	56
F	30	53
G	20	64
H	21	78
2組 Ave.	31	62
+31 		

* 前単元「江戸幕府と政治の安定」と本単元「明治の国づくりを進めた人々」では、グループの組み換えを行っているため、グループ単位での変容は見るができない。

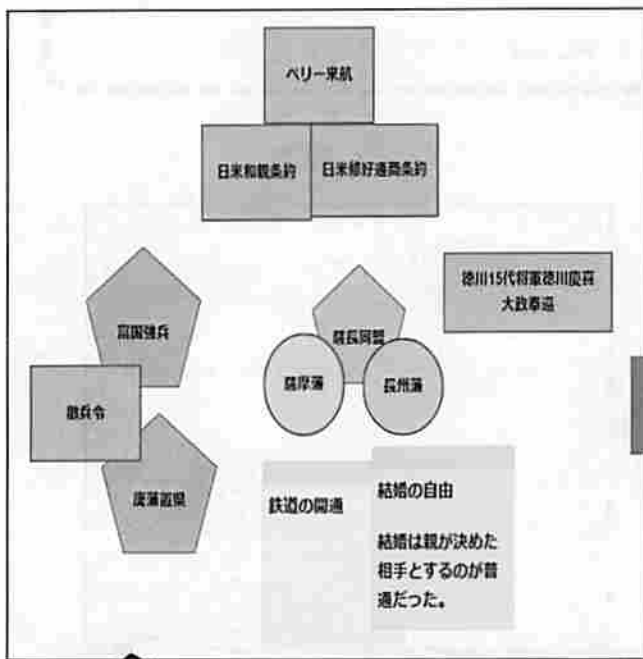
資料5 Microsoft Whiteboardの変容



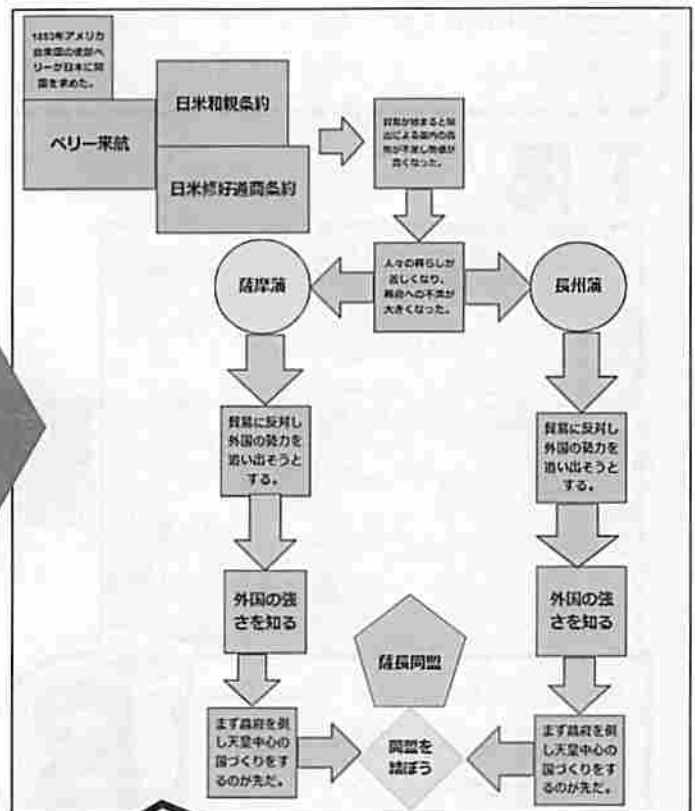
大まかな歴史の流れや出来事を書き出している。



倒幕からの時代の変化を順に捉え関連付けることができている。



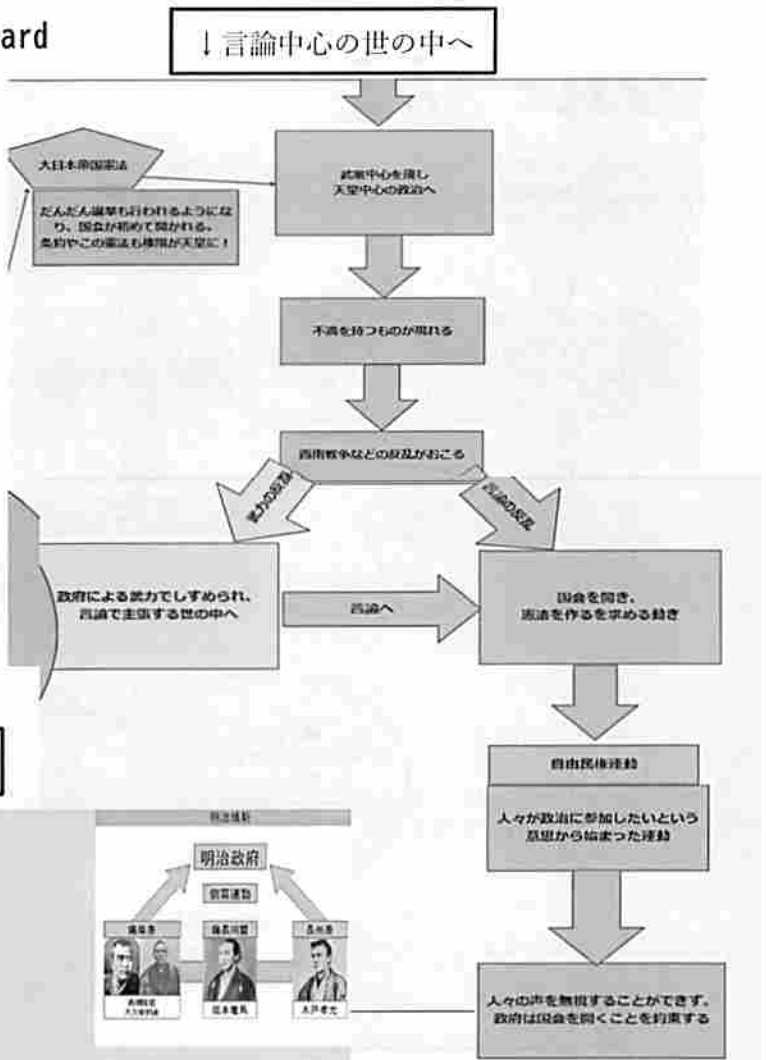
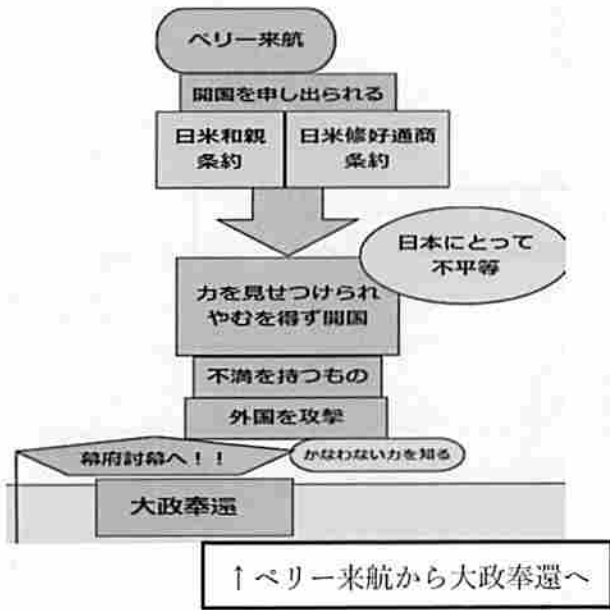
大まかな歴史の流れや出来事を書き出している。



薩長同盟までの流れを人々の思いと関連付けることができている。

資料7 本単元で児童が作成した Whiteboard

グループ①



政府の方針

○富国強兵
・...経済を發展させ、国を豊かに。
—そして、近代的で強い軍隊を作ろうとした。

○地租改正
...新たな税金制度。土地の所有者に、その土地の地価の3%の金額を現金で納めさせる。
そのため、政府の安定した収入が得られた。

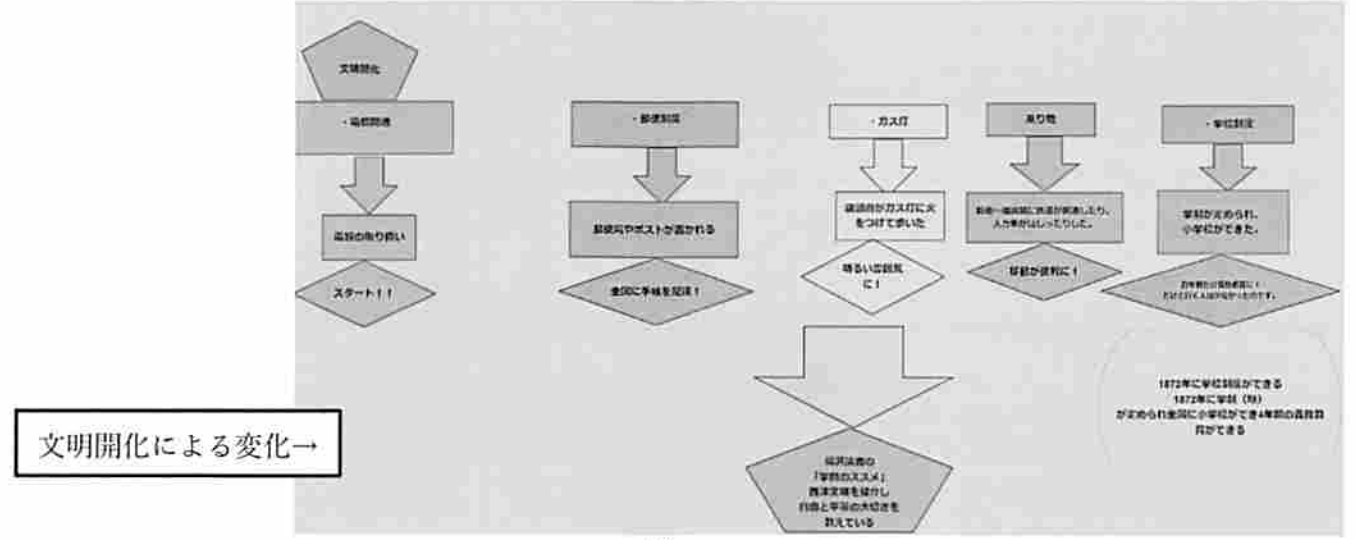
○徴兵令
・20歳以上の男子が二年間兵役につく。

○殖産興業
・工業の近代化へ

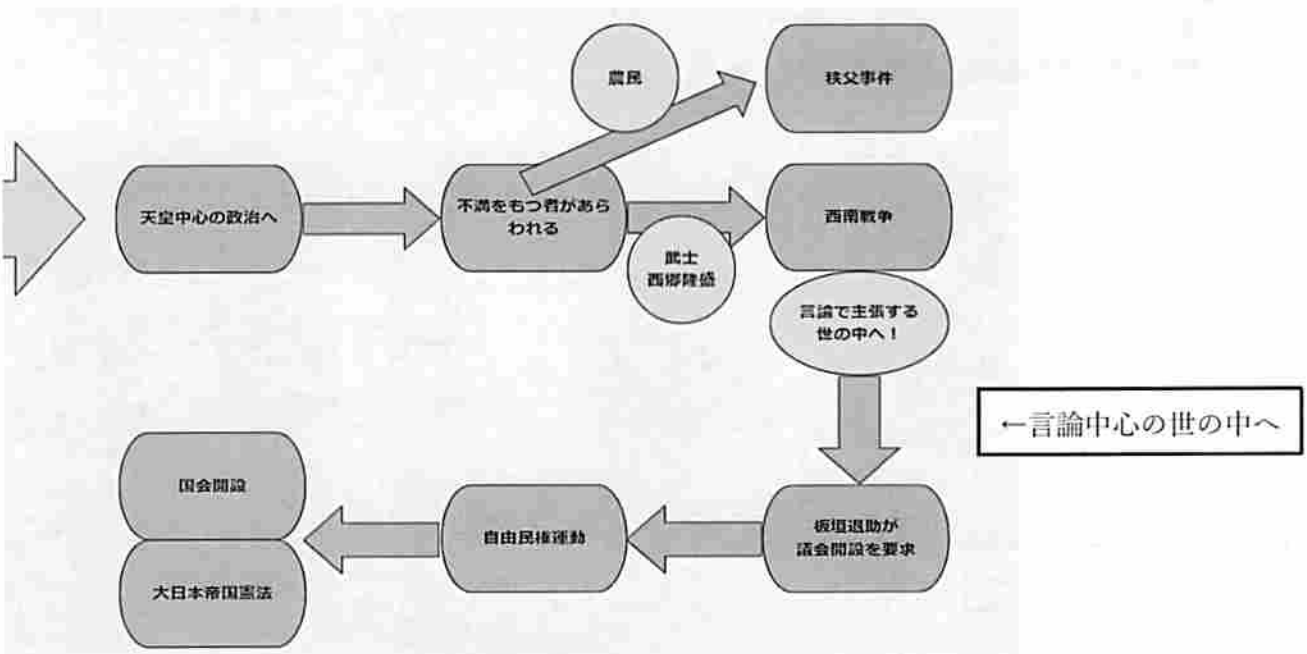
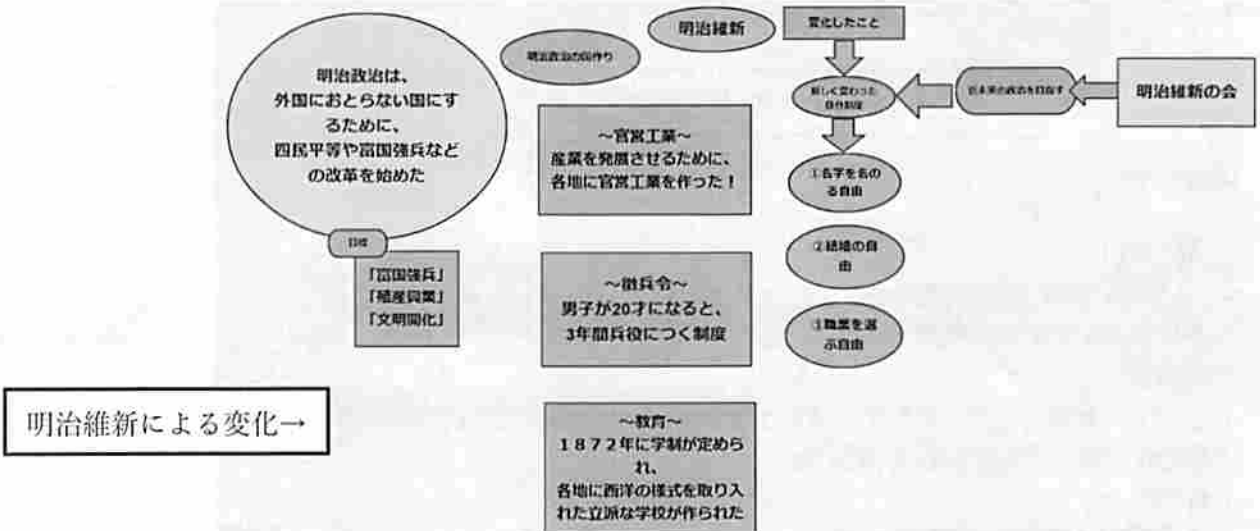
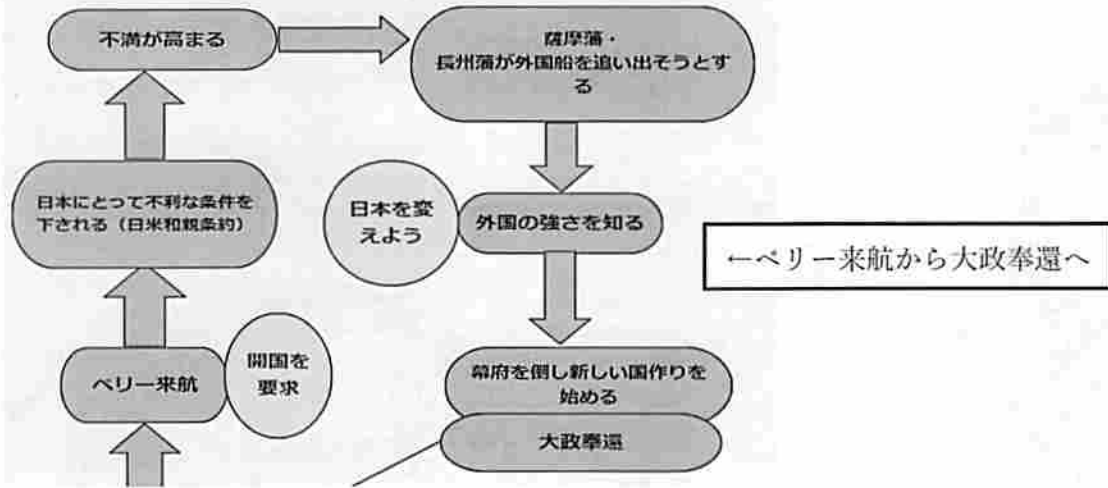
○廃藩置県
・全国に政府の役人を派遣した。

明治政府
伊藤博文 山縣有朋 板垣退助 大隈重信 西園寺公望 大久野光

←明治新政府の方針



グループ②



資料8 参考文献

- ・中央教育審議会. 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」. 2016
- ・国立教育政策研究所. 「教育課程の編成に関する基礎的研究（報告書5）」. 2013
- ・文部科学省. 小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 社会編. 日本文教出版. 2018
- ・臼井秀明, 石上靖芳. 小学校社会科における「歴史的思考力」を育成する単元開発と評価方法に関する実践研究: 「社会的な見方・考え方」に焦点をあてて. 静岡大学教育学部県有報告. 教科教育学篇. 2018, vol. 50, p. 39-54.